

多面的機能支払交付金に関する ロジックモデル(案)

平成 2 8 年 8 月 4 日

農 林 水 産 省

目 次

1. ロジックモデル（素案）の概要	1
2. ロジックモデル（素案）	
(1) 全取組を通じたロジックモデル	2
(2) 地域資源の保全管理、農業用施設の機能増進、 構造改革の後押しに着目したロジックモデル	3
(3) 農村環境の保全・向上、農村地域の活性化、 自然災害等の防災・減災に着目したロジックモデル	4

1. ロジックモデル（素案）の概要

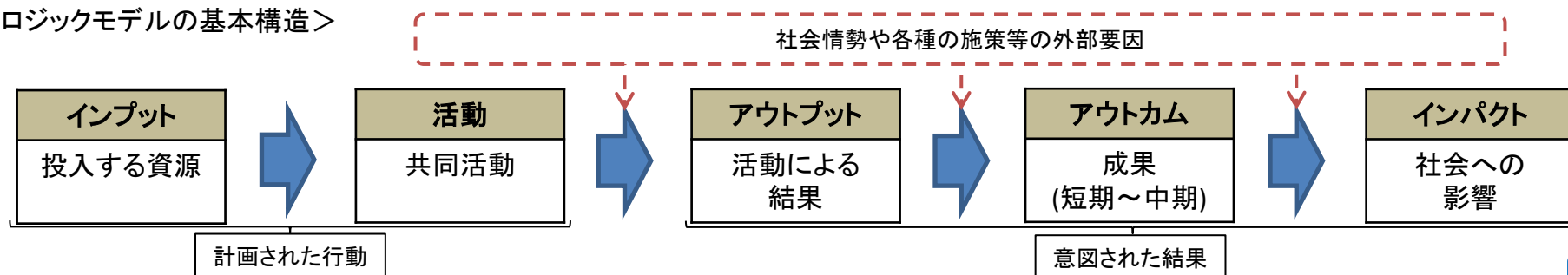
（1）目的

- 本交付金の中間評価に当たって、活動（手段）による効果（成果）を評価するため、活動がその目的を達成し、成果を上げるまでのプロセスを論理的に説明するためのロジックモデル（素案）を整理。

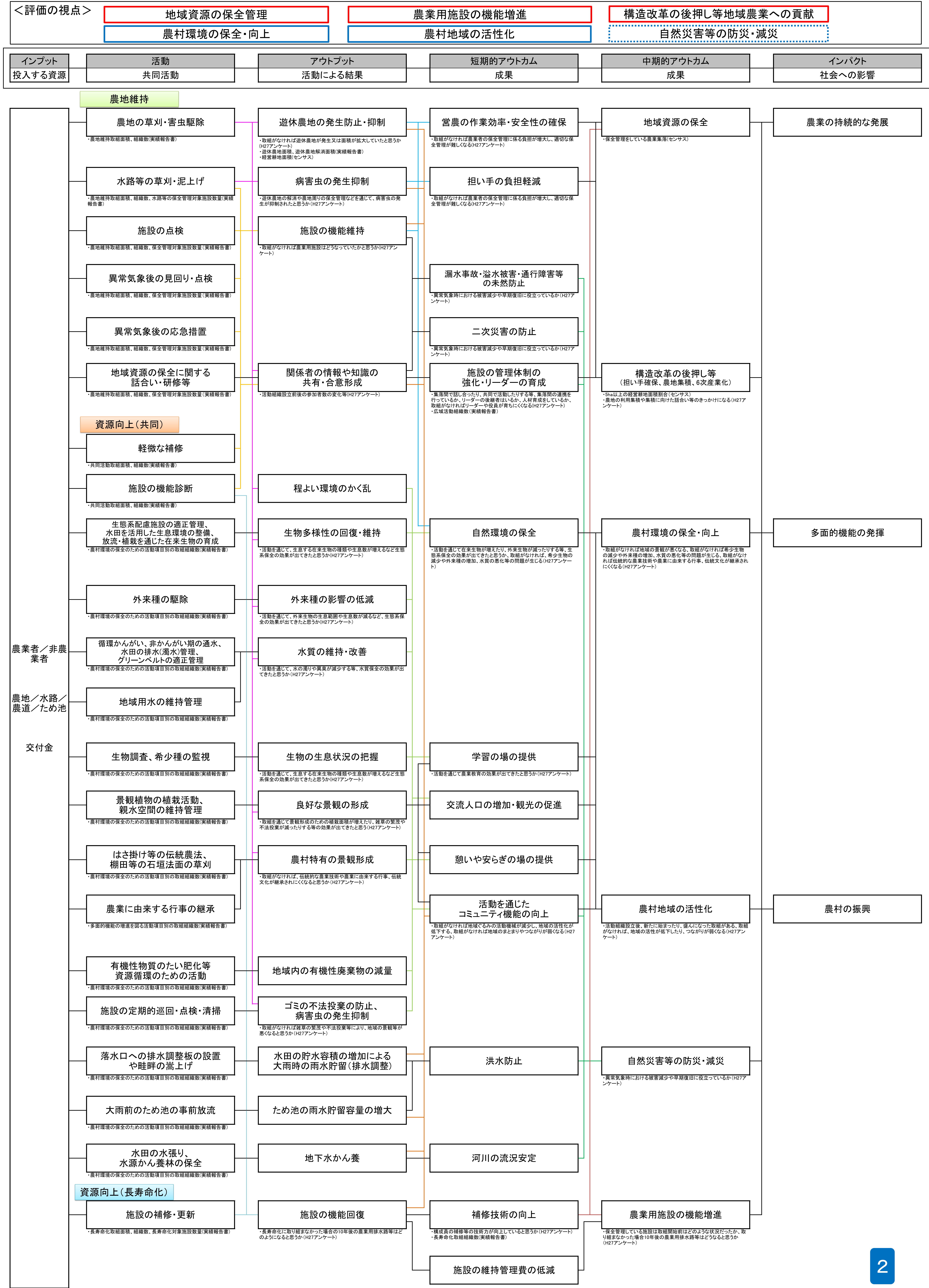
（2）考え方

- インプット→活動→アウトプット→アウトカム→インパクトの5段階のプロセスとした。
- 「インプット」は、活動に必要な、人（農業者、非農業者）、地域資源（農用地、水路、農道、ため池）、本交付金とし、「活動」は3支払で実施できる各活動とした。
- 「アウトプット」は活動による結果、「アウトカム」は活動による成果、「インパクト」は社会への影響として、各活動による効果を整理。
- 「インパクト」は、施策の理念の実現をゴールとし、『食料・農業・農村基本法』や『農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律』の基本理念を基に「農業の持続的な発展」、「多面的機能の発揮」、「農村の振興」とした。
- 中間評価における5つの評価の視点は、中期的に生ずる各種のアウトカム（成果）として整理した。
- ロジックモデルにおける各効果の評価指標は、関係するアンケート結果や実績報告、統計資料を参考として整理した。
- 本交付金のアウトプット・アウトカム・インパクトについては、社会情勢や各種の施策等の外部要因の影響を考慮する必要があるが、手段と成果の関係性を明示するため、本交付金の影響に絞って整理した。

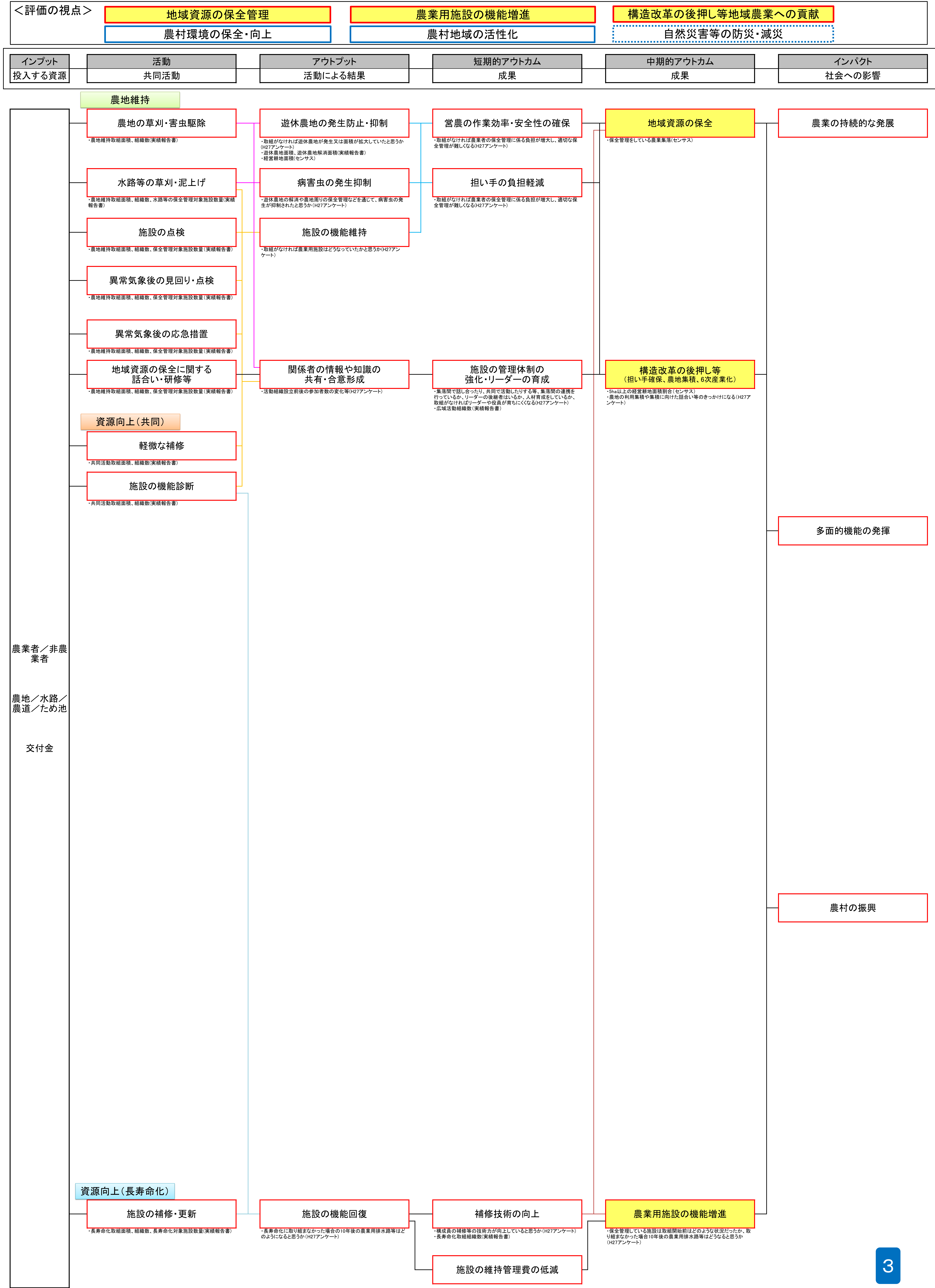
<ロジックモデルの基本構造>



2. ロジックモデル(素案)
(1) 全取組を通じたロジックモデル



2. ロジックモデル(素案)
(2) 地域資源の保全管理、農業用施設の機能増進、構造改革の後押しに着目したロジックモデル



2. ロジックモデル(素案)
(3) 農村環境の保全・向上、農村地域の活性化、自然災害等の防災・減災に着目したロジックモデル

